



絆の草中

8

草野中学校だより

発行責任者 校長 丹野 英雄

第8号 令和2年11月6日発行

11月5日(木)13:00から16:00にかけて、高校説明会を開催しました。近隣の高校や希望が多かった高校から校長先生はじめ担当の先生をお招きし、3年生と保護者の皆さんに向けて、高校のカリキュラムや各校の特性・生徒の活躍の状況などを15分程度で説明いただきました。

どの高校の先生も、「本人が高校で何を学ぼうとしているのか、しっかりした目的意識をもつことが重要だ。」と、おっしゃっていました。一口に高校といっても、普通科、総合学科、職業系学科など、さまざま

な科があるので、近い将来の見通しがないと選択するのに迷わずです。さらに、高校側が求める学力を身に付けておく必要もあります。

3年生は、まさに今、そうした選択に迫られる時期にさしかかっています。11月下旬には三者相談を行い、本人の希望はもちろん、保護者の方の思いも確認し、その後も個別に相談に応じていきたいと考えています。ぜひ、各家庭においてもお子さんと向き合って近い将来の進路について十分な話し合いを持っておいてください。

中学校卒業後の未来予想図は描けているかな？



草中祭においてステージ背景を彩った「巨大アート」



一人一人の個性が結集し、大きな力となった草中祭生徒たちの素晴らしさが随所に表現されていました。

【校内合唱コンクール結果】

★最優秀賞★3年3組

敬称略

《金賞》

3年3組
2年3組
1年2組

《銀賞》

3年1組, 3年2組
2年1組, 2年2組
1年1組, 1年3組

《指揮者賞》

3年1組 八木橋 渉
2年1組 松本 心優
1年3組 久保木 海有

《伴奏者賞》

3年3組 猪狩 明希
2年3組 秋本 里穂
1年3組 村上 茉香

「前進～今を乗り越え、明るい未来へ。」のテーマ・スローガンのもと、10月23日(金)に草中祭を開催しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策に万全を期したため、例年の草中祭に比べると規模や時間は縮減せざるを得ませんでした。

合唱は、学年単位で時間を区切ってご家族の方にも聴いていただくことができました。新型コロナウイルス感染症の収束が見通せれば、次年度から一般公開に戻して、地域の方々にも参観していただけたと思います。その日が来ることを願っています。

前進～今を乗り越え、明るい未来へ

竹のようにしなやかで、強い心を持っている？

やや季節を先どりした写真ですが、これは京都嵐山の冬景色を撮影した1枚です。「竹林の小径」にある竹が、雪の重さにしなっているありさまが伝わってきます。

ところで、私たちは、思い通り順調に物事が進む場合がある一方で、思わぬ困難や失敗に直面し、物事が停滞したり後退したりする場合があることを経験的に知っています。困難や失敗に直面すれば、大なり小なり、私たちはストレスやプレッシャーを感じるものです。

『ストレスやプレッシャーに押しつぶされそうになる』という話を耳にしたことがあると思います。まさに、その状況が、この竹のような状況と言えるでしょう。中には、その雪の重みに耐え切れずに折れてしまう竹もあるかもしれませんが、ほとんどの竹は、しなって雪の重みを受け止め、いずれ雪を撥ね返して真っ直ぐな状態に戻ります。この竹と同じように、外からの圧力に対し、しなやかに適応し、撥ね返す力を私たちは持っています。

そうした心の回復力あるいは復元力のことを心理学の専門用語で「レジリエンス」と言います。竹のしなりと同じように、「レジリエンス」が高い人も低い人もいます。「レジリエンス」が高い人はどんな特徴を持っている人なのでしょう。気になるところです。大きな特徴として、次の5つが挙げられるそうです。

- ① 自尊感情が養われている
- ② 楽観的である
- ③ 思考に柔軟性がある
- ④ 挑戦を諦めない
- ⑤ 感情をコントロールできる

① 自尊感情が養われている

自尊感情については、「絆の草中」第3号で詳しく掲載しましたので、何となく覚えている方が多いと思います。自分の欠点も認めつつ、ありのままの自分を受け容れることができる心持ちのことを表しています。自尊感情がある人とは、自分自身を過大評価も過小評価もし

ない人のことを言います。何か困難に直面した場合でも、最初から「無理」と決めつけることはありません。これは、レジリエンスの高い人の重要な特徴のひとつです。

② 楽観的である

人は困難や失敗に直面すると、「自分にできるだろうか」「本当に解決するだろうか」といった不安でいっぱいになってしまうものです。しかし、そんな状況の中でも「いつかできるだろう」「きっと解決できるだろう」といった楽観的な思考を持っている人は、様々な困難を前向きに捉え、不安に打ち勝って物事を解決していくことができます。

③ 思考に柔軟性がある

大きなストレスがかかる状況下でも、柔軟性の高い思考力があれば、ネガティブな状況の中にもポジティブな側面を見つけ出すことができます。厳しい状況でも発想の転換でわずかな光を見出すことができれば、それは逆境を乗り越えられる大きな力となります。

④ 挑戦を諦めない

次々と困難にぶつかる、失敗を繰り返すといった状況でも、「一步一步着実に成長できる」「自分自身が前進していると感じられる」といった人はレジリエンスが高い傾向にあります。また常に挑戦し続けられる人は自己効力感も高いといえるでしょう。

⑤ 感情をコントロールできる

目の前の状況に一喜一憂せず、物事の本質と向き合うことができる人は、心の回復力・復元力が高い傾向にあるといえます。逆に、喜怒哀楽といった感情の起伏が激しい人は、自分の感情に振り回されてしまい、そのこと自体が大きなストレスとなってしまうのです。

このように、レジリエンスの高い人は、自尊感情が十分に養われ、楽観的で柔軟な思考ができ、自らをコントロールしながら挑戦し続けられるといった特徴を持っています。これからの未来を担う子供たちにも、雪の重みを受け止め、いずれ雪を撥ね返すことができる竹のように、しなやかさを身に付け、強い心を持ってほしいと思います。



【教育目標】

自ら学び、考え、正しく判断できる生徒
絆を大切に、思いやりを持って行動できる生徒
進んで運動し、心身ともに健康な生徒



〒970-0101

福島県いわき市平下神谷字宿25番地

TEL 0246-34-2208 FAX 0246-34-2771

E-mail : kusano-jh@city.iwaki.lg.jp